

# “ばん馬のふるさと” フランス・ペルシュ地方で開催中 太田宏昭 写真展「砂の軌跡」

L'Empreinte sur le sable : Le Cheval de trait en son royaume,  
Ban'Éi et culture équestre au Japon Photographies d'Hiroaki Ota

本誌でおなじみの写真家 太田宏昭氏は、ライフワークとして約10年前からばんえい競馬の写真を撮り続けている。“いつかは、ばん馬の故郷フランス・ペルシュ地方で写真展を開きたい”その思いが今秋ついに形となった。11月23日まで開催中だ。

文=大島 泉 (Izumi Fily-Oshima)  
協力=ヴァージニア・クユムジャン (Virginia Kouyoumdjan)



13～15世紀に建てられた聖ゴビュルジュ修道院の礼拝堂。ゴシック様式の建物に、ルネッサンス様式の塔が特徴。

## 日仏の人たちの協力によって 念願の写真展が実現

見渡す限り広がる丘陵地帯の麦畑の向こうに、忽然と教会の塔が現れる。ここはパリから南西に150km、ペルシュ地方自然公園の真ん中にある、重種馬ペルシュロンの原産地だ。

11世紀に創設された聖ゴビュルジュ修道院が、郷土の暮らしを生態学、民俗学的な観点から見せる博物館「エコムゼ・ド・ペルシュ (Ecomusée du Perche)」となったのは1972年のこと。以来、この地域の農業や自然に関するさまざまな展示が行なわれてきたが、ペルシュ地方と日本の北海道を“馬”で結ぶ異例の写真展が、現在

催されている。本誌でおなじみの写真家太田宏昭氏による「砂の軌跡」だ。

会場には、太田氏がこれまで撮りためてきたばんえい競馬や北海道の生産牧場、十勝牧場に息づくペルシュロンの子孫たちなど、幅広い写真が展示されている。

太田氏とペルシュをつなぎ、この展示会を実現に至らせたのは、地元暮らし、自らも2頭のペルシュロンのオーナーであり、日本との縁も深いヴァージニア・クユムジャンさん（『乗馬ライフ』2016年1月号6ページ～参照）。会場であるエコムゼを紹介

したり、写真のセレクトや展示配置をアドバイス、各作品にフランス語の解説をつけたのもヴァージニアさんだ。

巨大な美濃和紙のタベストリーをいかに高い天井からつり下げるか、それを実現したのはなんと、アーチェリーの名手。タベストリーを吊るすヒモは、なんと3日かけて天井と梁の間に弓矢で渡した。

スタンドグラスを通して差し込む光は時間帯によって色や角度が変わり、ばん馬たちを幻想的に浮か上がらせる。



上・アーチェリーの名手に、タベストリーのヒモを天井の梁にかけてもらう。奇想天外な方法に驚き(笑)。  
下・3日目、やっとタベストリーを吊るすことができた。



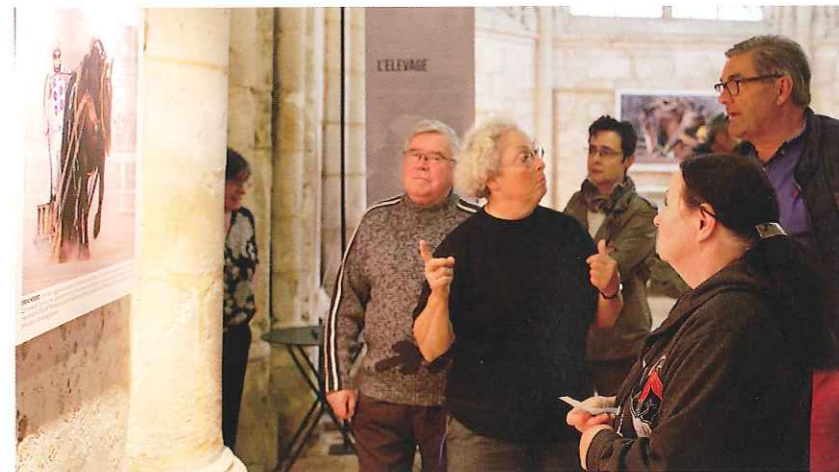
エコムゼの看板にはペルシュロンが。まさに本写真展におあつらえ向きの場所。



右・エコムゼ・ド・ペルシュ館長のエヴリン・ワンデルさん。



「なんと会場入り口に、日の丸を立ててくれました。お心遣いに感謝です!」(太田宏昭・写真も本人)



オープニングではヴァージニア・クユムジャンさん(左から2人目)が、ばんえい競馬についてゲストにアツク解説。

## ばんえい競馬や ペルシュに敬意を示して

9月30日に開かれたオープニングには、ペルシュ地方に暮らす生産者や調教師など馬に関わりある人々や、日本とゆかりのある人たちが集まり、フランス最大の地方紙『ウエスト・フランス』も取材に訪れた。

「10年前、私が写真を撮り始めた頃のばんえい競馬は、とても廃れていました。毎回、これっきりかもしれない、切ない思

いでシャッターを押していたのを覚えています。この度はエコムゼ・ド・ペルシュとばんえい競馬を主催する帯広市、ばんえい競馬関係者に感謝します」(太田宏昭氏)

「重種馬は働くのが好き。ばんえい競馬は、決して馬を苦しめるものではありません。馬たちは懸命に走っているんです」(ヴァージニア・クユムジャンさん)

ホスト役の二人は、ばんえい競馬やペルシュロンに対する愛にあふれた言葉で挨拶。

エコムゼの館長であるエヴリン・ワンデルさんは、「修道院の建築の持つ荘厳な美と、力強く走る馬たちの気高い美が呼び合うようで、心を打たれる」とコメントし、エコムゼの会長マリー＝ジョゼ・ミッシェルさんは、「機械化で馬の仕事が減っているペルシュ地方にとっても、重種馬レース(ばんえい競馬)という賢い用途を見つけた日本から学ぶことは多い」と、この個展の意義を語った。

「砂の軌跡」の会期は2017年11月23日まで。太田氏の写真に加え、フランスの職人による鞍馬用の馬具や、マンガ『銀の匙』のフランス語版、チャグチャグ馬コの衣装など、ヴァージニアさんのコレクションも展示されている。

## INFORMATION

### 太田宏昭 写真展「砂の軌跡」

L'Empreinte sur le sable :  
Le Cheval de trait en son royaume,  
Ban'Éi et culture équestre au Japon  
Photographies d'Hiroaki Ota

### Ecomusée du Perche

[ADD] Lieu dit Prieuré de Sainte-Gauburge, 61130 Saint-Cyr-la-Rosière, FRANCE  
[TEL] +33 2 33 73 48 06



全体で5m×4.5mのタベストリーが、高さ15mの天井から吊るされた。その他、50点を超える作品を展示。



写真展に協力してくれた方たち、  
Merci beaucoup!

左から、エコムゼの職員のエヴリン・モランさんとセヴリン・キャバレさん、クレマン・デュロシェさん。右端がヴァージニア・クユムジャンさん。